

# 第14回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、療養者側の要因（全身虚弱化）によって低下する ＝

北九州在宅医療・介護塾  
塾長 久保 哲郎

前回は、口腔機能と呼吸器系機能についてご紹介させて頂きましたが、一先ず口腔機能と脳神経系機能、消化器系機能、そして呼吸器系機能との関連については終了し、今回からは高齢療養患者と口腔機能についてご紹介させて頂きます。

一般的に健康な高齢者の口腔機能低下は、むし歯や歯周病等に罹患したことで噛むと痛い場合や、歯が喪失している部分にブリッジや義歯等の補綴物が装着されていない場合、或いは口内炎が発症したため痛くて思うように噛めない場合等に診られます。

しかしながら長期に療養されている高齢療養患者の多くは、加齢によって脳神経系機能低下、消化器系機能低下、呼吸器系機能低下、筋肉量・筋力低下の他、様々な生理的機能が低下することに伴って、「硬い物が食べづらくなる、飲み込みづらくなる（老嚥）」等の口腔機能低下がみられるよう

になり、このような状態が続くと、口腔機能は廃用の状態になってしまいます。

ところで、高齢療養患者の病状改善については「口からの栄養管理」が是非とも必要となりますが、口腔機能低下が長期間続くと栄養摂取に偏りが生じ、遂には低栄養状態になるといわれています。

このような状態で新たに疾患等を併発してしまうと全身が衰弱してしまい、全身の虚弱化が高齢療養患者の口腔領域へ波及すると機能低下が生じ（療養者側の要因）、その結果として口腔機能に障害がみられると考えられています。

そのため、高齢療養患者の口腔機能低下を改善するためには、歯と口腔はもとより全身状態についてもみる必要があります。

全身管理と並行しながら低下した口腔機能の改善を図ることが肝心で、ここに「多職種連携・協働」によって取り組む意義があります。

